

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	中部テレコミュニケーション株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中区錦一丁目10番1号
工場等の名称	c t c 栄ビル
工場等の所在地	名古屋市中区栄五丁目3番26号
業種	情報通信業
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	
事業の概要	電気通信業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年8月2日 ～ 令和5年10月31日		
公表方法	☒	掲示 閲覧	(場 所) 栄ビル1階 エレベーターホール
	☐	ホーム ページ	(IPアドレス)
	☐	冊 子	(冊子名・ 入手方法)
	☐	その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	連絡先に同じ		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

地球温暖化対策をはじめとする環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

- ① 環境施設の持続的な改善を図ります。
- ② 省資源・省エネルギーの活動を推進します。（再生可能エネルギーを積極的に取り入れます）
- ③ 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。
- ④ 従業員への環境教育をすすめ、社外に対しては環境情報の公開を進めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

CTC環境委員会
(社長・各本部長にて構成)

◆ 省エネ・地球温暖化対策連絡会

【構成】

会長： ネットワークオペレーションセンター長

事務局： 省エネ・エネルギー管理員

委員： 各部（グループ）推進委員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		5,303	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	5,303	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績	目標		計画期間の実績		
	令和 3 年度	令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）		%		%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量				t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%	%	%

項 目	基準年度の実績	目標		計画期間の実績		
	令和 3 年度	令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
原単位あたりの排出量	5.998 t-CO ₂	5.638 t-CO ₂		5.972 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）		6.0 %		0.4 %	%	%
原単位あたりのみなし排出量				t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新サービス提供に伴う回線増に伴い設備を増強した結果、電気使用量が増えた事が要因。
来年度以降、効率的な設備の運用を実施する事により削減率を上げる。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践 通信機器	①休廃止設備の早期通電カット ②省エネ機器へのリプレイス	電気使用量で -2%	電流値をモニタリングすることで、サーバー設備設備の消費電流を適正管理。
省エネルギー・省資源の行動の実践 冷暖房	①建物改修にあわせた省エネ型空調機への更新 ②機器発熱量に合わせた機械室の冷房運転 ③チャレンジ25で取組む事務所冷房運転温度の厳守	電気使用量で -1%	キャッピング、エアフローの効率的な運用管理。 事務所冷房温度28度設定遵守。
省エネルギー・省資源の行動の実践 照明	①建物改修にあわせたHf蛍光灯への取替え ②不要な照明の消灯	電気使用量で -0.5%	LED照明の導入 昼休み等の消灯運動実施
省エネルギー・省資源の行動の実践 OA機器	①不使用時の電源OFF（EMS環境項目） ②コピー機の節電モードの活用と退社時の電源OFF	電気使用量で -0.5%	OA機器の節電モード利用 帰宅時の電源OFF コロナ対応での在宅勤務により OA機器の節電
省エネルギー・省資源の行動の実践 上水道	①空調機エネカット水量・噴霧時間・頻度等の見直し ②水冷式空調機の更改	水道使用量で -0.5%	状況に応じたエネカット設備の運用（必要ない場所はOFF）
省エネルギー・省資源の行動の実践 電気	再生可能エネルギーの導入	CO2排出量で -1.5%	太陽光システムの試験導入

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

① 最終退社時にＯＡ機器の電源ＯＦＦ実施 ② 空調設備等の更改時に、省エネ機器の採用。 ③ 社有車の利用を控え、公共交通機関を利用。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

特別な実施事項なし
